

氷川瑣言

比路志生

村の復興は道路愛護から

村民一致の協力は道路の愛護から生起する。長野縣下伊那郡上久堅村道路愛護會は今春殊勳甲として縣知事並に内務省道路改良會から表彰されてゐるが山間地の貧弱村で且つ難治村としての同村が今日の如く建直つた蔭の力としての効果は大きい。當時助役から現在村長に昇格した長沼巖氏が經濟的に行き詰り人心も頹廢し生氣を缺いた村を更生させるためには經濟更生事業に乗り出す前に村民一致の協力精神を確り植付けの事から始めねばならぬとその手段として當時青年團を主體として相當の成績を收めてゐた同村唯一の南部道路愛護會の良い點を取り入れて全村打つて一丸とした道路愛護會を結成し毎月一回づつ道直しを始めたのが切掛となり仲間を合せて清掃したあとの氣持良さが村民總親和の糧となり九年間も眠る産組として赤字に縛られたまゝ今日に至つた同村産組も今夏全村加入で建直り村更生の軌道は完成した。昨

冬など長沼村長が雪が降つたら全部直ぐ掻いて箒で掃いて了へど云ふ命令に従ひ赤粘土のため毎年降雪後は泥濘のために下駄が取られて學童など登校出來兼ねたのに拘らず如何に雪が降つても次の日は草履で歩けると云ふ見事な清掃振りで高下駄の要を全く無くした逸話さへ生んでゐる。

都市人物の地方還元には先づ優遇の

途を備へよ

近來の都市は東京都を初め餘りに、膨脹し過ぎた、總てが中央集權的である處から地方農村の政治、産業、思想、文化、經濟の貧困さが著しくなつた。そこで都市人物の地方還元が喧しく論ぜらるる。此事は三十年前井上友一博士などに依つて既に已に強調せられた所であるが盲目的人物の多い世では折角先見の明も用ゐられない。殊に今日は國土防衛上必至の事態として地方還元が唱へらるゝ、彼の恩給に依つての生活者、不在地主、都會地を必要

としない不急業務にたづさわる者、舊藩主のある者等々は須らく地方に還元すべきである。然しながら地方に還元せよと云ふも徒らに之を主張するのみでは何人も首肯しないであらう。人物還元には尤も周到なる措置を要する。元來都會に人材とも覺度しきものが集中してをるのは自由競争時代立身主義の遺物で特に我國に於て甚しい、農村に地方町にこれら人物を安居せしむる途を講ずれば人物亦國家の現状に對する挺身を興起するならば其效力の大なるものは蓋し思ひ半ばに過ぐるものがあらう。若き官吏の歸農も適切であらうが、例へば國民學校に現行制度の事務校長の外に名譽校長とでも稱すべきものを一校又は數校に置き還元せられた中で適當の人材を之に充つることの如き其の名譽校長として人格智能に兒童を接近せしめて其の感化を受けしむること一舉兩得、一石二鳥の方策であらう。如斯郷土人の爲に所謂様の下の力持となつて徳力、智能、技術を以て郷土人を啓發するの巨道實踐の途を備へなば名譽と職業と歸郷を價值あらしむることに於て其の目的を達成することとなるであらう。理論よりも先づ茲に着眼して實踐することが緊切事である。

關相場の取引は國民の恥辱

近刊の米國雜誌漫畫に「牛肉店から飛出した荒狂ふ墨牛があり手がつかぬ群衆は「鬮牛師は居ないか」と叫んで居るのが記されてをる。墨牛の圖體にブラグマーケット(鬮)とはつきりかゝれ

である。之れで米國の生活必需品が無闇に狂ひ廻つてをる狀況がよく分る。然しこれは對岸の火災視することの出来ないことだ。鬮取引は一切撲滅せよと鬮は斷乎拒否せよと呼びつゝも尙目前の甘い物には目がくらみ、心がゆるむ、賣る者は決して鬮を望まぬが買ふ者が鬮を誘引するからだと言譯をするが賣る者も買ふ者も同罪である。大體此の四年間に生計費がドイッでは一割四分位嵩んでをるのに對し我國では四割四分上昇してをる、それは適正價格の値上げの上に鬮相場が加はつてをるからだ。此は生活上由々しき大問題である。鬮取引は我國國民全體の恥辱である。何故に速かに之を撲滅せざるか要は國民の公德の自覺にある。

自らの爲す處を人に求む戒心が必要

松平伊豆守が身邊に召使つて居る有能と見らるる土某を幕府の役人に登用しないのを怪しみ或る人が其の何故なるかを訊いた處が伊豆守は笑つて「あれは拙者の氣を迎へるに妙を得てゐる、併し左様な人間は己より下の者かぬは鼻息を視はれねば承知しないと思ふ、夫では公平な政治が行へない」と言つた、克く人間の短所缺點を知つた言葉である。人の機嫌を取ることをうまい者は亦自分も其の通りにして欲しがるものである。阿附迎合は世にあり勝ちの事で餘程氣を配らなければならぬ。でなければことが分らなくなる。鍊成の會や神社、道路、公園などの掃除や袖を切りませうはさみませう運動など兎角「見てくれ」がしの形式的見録

坊式が少なくない。戒しむべきことである。

阿附追隨せぬ硬骨は尊し

山口縣下松市に調整課長武居菊治と云ふ人物が居る。曾て町内會指導者鍊成會でビールの特配申請を要求した處が「酒がなくては出来ない鍊成會なら料亭でやるがよろしい」と斷乎はねつたが又市會で議員の晝食用飯米の特配を申込んだが「斷じて罷りならぬ強ひて特配しなければならぬなら先づ私の職を免じてからにして頂きたい」と毅然たる態度を示して遂に此の要求を擧退したといふ話だ。上司や特權階級に對しては兎角盲從主義を取り、自分の職責を忘れて阿附追隨する者の多い中に斷然自己の信念に依り其の職分に伴ふ責任を盡して邁往する態度こそは決戰下吏員の範とするに足る、阿附追隨せぬ硬骨は尊し。

商工省は飛躍的轉移か

軍需省の誕生に依り消滅の運命に遭遇したのは企畫院と商工省とである。顧みれば商工省が農商務省から分派して一省となつたのは大正十四年である。其間に消長はあつたが概して大なる發展を爲した。農商務省の商工局の時代から見れば驚嘆に値ひする發展である。今回の消滅を發展的解消と思へば祝すべきである。初代から二十一代の今日に至るまでの大臣は高橋是清、野田卯太郎、片岡直温、藤澤楚之輔、中橋徳五郎、俵孫一、櫻内幸雄、前田米藏、中島久萬吉、松本丞治、町田忠治、川崎卓吉、小川郷太

郎、伍堂卓雄、吉野信次、池田成彬、八田嘉明、伍堂卓雄、藤原銀次郎、小林一三、豊田貞次郎、左近司政三、岸信介諸氏の順位である。高橋氏、伍堂氏、池田氏、藤原氏の如き回顧して得意を感じるもの小林氏の如き悲哀を感じる大臣もあらうが、とにかく今日の情勢は最早商工省の存在を許さない。其存在は却て軍需を充實するの防碍となる虞があるので大體軍需省に吸収されたであらう。だが如何にも遺憾に思はるるは元燃料局長某其の他の潰職事件の尙ほ新たなるを覺ゆる事である。

心なき言辭は慎しみたる上にも尚

慎しむべきか

他人を批判するのに妄りに彼は米英的存在とか非國民の態度とか、反逆的行爲とかと謂ふ。實に思はざるも甚しきもので慎重を缺き日本人同志として交はり、陛下の赤子として取りあしらうべきに之れはまた餘りに獨善的な誇張的な頭迷者流な言ひ方である。勿論眞の米英的なもの、非國民的なものは大に排斥すべきは言を待たない所であるが、能くも他人の意志をも考へず、他人の趣旨のある處をもわきまへず、獨善的に量見狭く、誇張的に極端的に言へばよきかと思ひ、徒らに他人を排斥し、いやしめなば我事成れりとの考へから斯る言辭を弄するであらう。事によると他を論難して居る者が却つて眞の米英的であり、非國民的であることは少なくない。無知や無作法の者が斯く言へばともかく相當

教養ある者が敢て斯く言ふ、是れで大東亞民族の指導者たるの資格ある者と謂ひ得るや否心なき言辭は慎しみ戒しむべきものである。

機械が人を動かすか人が機械を動かすか？

サイレンが鳴つた。スハ空襲警報とばかり都民は緊張した、電燈は消されて夜學は休校、劇場映畫館寄席の顧客聴衆は待避、一瞬にして整然として警戒態勢は整へられた。がまもなく警報は機械の故障によるとのこと取消された、事がなくて結構であるが、機械のいたづらも程のあるものだ、とにかくホツとした氣持になつたが何んだか割り切れないものがあるやうに感ずる。同じき事は繰り返へさないやうにして、またかといふことにならないやうに確實な誤りのないサイレンがほしいものだ。機械が人を動かすか、人が機械を動かすのか、とにかく、固き確信は人をして沈着なる態度、落着きのある動作に出でしむるものであることを記憶し、夫れにふさわしき機械が設備されたいとは獨り吾人の望みばかりではなからう。

眞の學者らしき學者

十月四日逝去した理學博士池野成一郎氏は植物學界の國寶といはれた人だが、その著書は大部分、外國で出版されてゐるので、外國の學界に知られてゐる割合には、わが國では一般にあまり知られてゐない。最近逝去した木村榮、鈴木梅太郎兩博士の、學界

の最高峰だつたことは、文化勳章で周知するところだから、世間にも酬いられたといへる。池野氏は停年で帝大教授をやめてからはあれだけの大學者でありながら、四間しかない貧家住ひで、女中も置かず、簡素な生活を送りながら、發病の前日まで植物學教室で、研究を續けてゐたが、教室に預けてあつた萬巻の藏書には、金錢では手に入らぬ貴重な文獻が多く、先年、名古屋帝大で八萬圓で買取りたいと申込んだが、俺はそんな大金を貰つても使ひ途がない、たゞなら寄附しようといつて承知しない。仲に立つものが令息三人に一萬圓づつ贈るといふ條件で七年前話は纏まつたが、賣手が値段を値切つたといふので知人間の噂になつた。偉なるかな、大なるかな眞の學者とは如斯ものぞ。

叙勳の恩賞のうべなるかな、尊きは眞の學者である。

